

2015年9月10日

何時迄も晴れない空

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 行天 豊雄

またマーケットがざわついてきた。「通貨戦争」とか「世界同時株安」とか、何時か見た見出しが帰って来ている。当然のことながら、何か悪い原因が生じたのである。それにしても2007年にサブプライムローンの破綻をきっかけに始まった世界金融危機から8年も経っているのに、世界中でまだ誰も本当に空が晴れたと思っていないということは、考えて見れば由々しい事態ではある。

どうして楽観的になれないのだろうか。それはやはり世界の経済や政治の実態が実際良くなっていないからだろう。第一に、世界経済は明らかに成長力を失っている。先進国も発展途上国も資源輸出国も、10年前の高成長期待の頃と比べると明らかに歯車が逆回りしている。第二に、世界中見廻しても、基盤が強固で十分な指導力を発揮しているという政府が何処にもない。皆内憂外患でよろよろしている。第三に、そんな中で世界のあちこちで武力衝突が起りそうなりリスクがくすぶっている。まあこれでは気分が晴れなくても仕方がない。

しかし、最近の主要経済で起っているさまざまな不具合を見ると、それは決して不可抗な時の流れの故ではない。米国は相対的に回復が進み、当然ながら6年に及ぶゼロ金利という異常な金融緩和策を正常化することが可能でもあり、必要でもある状態にある。ところが、いよいよ利上げかと思うときまって雇用や賃金のかんばしくないデータが出て、先のぼしになる。これを繰り返しているうちに、「政策の透明性」の掛け声とは裏腹に先行きの透明性は失なわれ、マーケットは日に日に神経質になり、不安定さを増している。FEDは実のところ自らの政策変更の国際的影響などそれ程考えていないのに、国内外の非難を惧れて確信を以って政策変更することができない。

中国も丁度大改革の真只中であって運が悪いと云えるが、どうも最近是指揮命令系統の不整合と混乱が目立つ。為替相場政策と証券市場対策と景気対策を総合的に判断する人的・組織的体制がない。加えて、汚職撲滅のための政治的社会的規制強化が政策全般の弾力性を損なっている。もっとも、中国経済が混乱の震源だと非難する日米欧もいい加減なものである。誰一人として、それでは中国経済がどうあって欲しいのかと云える者がいない。

ユーロ圏も似たり寄ったりだ。ギリシャ救策は何とかまとまったが、さあこれで新しい門出だ、という明るいムードは全くない。ユーロ圏に蔓延しているのは、どうせまた上手く行かないさと言うニヒルな諦観のように見える。根本的な問題の解決に向けて遂に第一歩を踏み出した、という高揚感が、ギリシャにもドイツにも、EUにもないのである。

日本も残念ながらパッとしない。回復を確信させるようなデータが一向に出てこないで4-6月期のGDPのような後向きの話が多い。想定内だ、次は良くなると云われてもそれで片づく話ではない。安倍政権は安保法制に夢中で経済を重視していないという疑惑を民心に生んでしまったのは明らかな政策ミスだった。疑惑を晴らすためには実績を示す他はないのだが、株価下落、円安ストップで状況は厳しい。

こうして世界を見ると、最近の停滞にはかなり人為の側面がある。しかも際立つのは、あちこちで合成の誤謬のようなことが起っているのに、主要国の間で経済政策の協調を真剣に語り合おうという動きが全くないことである。これは1980年代と比べると明らかに退歩である。グローバリゼーションははるかに進んでいるのに、それに伴って必要になった政策協調はむしろ消滅してしまっている。これでは憂うつな気分になるのも無理はない。

(株式会社マネーパートナーズ ホームページへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2015 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>